

関東精密鋳断株式会社

唐山市進出事例紹介

2005年11月18日

関東精密鋳断株式会社

社長 阪上 伸

弊社の概要説明

会社内容	会社名	関東精密鋳断(株)
	所在地	群馬県 高崎市
	業種	厚・中鋼板の総合加工メーカー
	顧客	建設機械メーカー・産業機械メーカー・産業車両メーカー
	業務内容	建設機械のフレーム製缶加工品・産業車両の製缶加工品 建設機械・産業機械・産業車両の加工部品の生産販売
中国拠点	会社名	関東精密機械(唐山)有限公司
	資本形態	100%独資
	設立・操業	2003年9月設立・2004年8月操業開始
	生産品	機械のフレーム製缶加工品・建設機械・産業車両の加工部品
	向け先	日本顧客向60%、 グループ会社向(中国・米国)40%
グループ会社	カツシロマテックス(京都府)	
	カツシロマテックス海外会社:中国2社、米国、インドネシア、タイ、英国	

関東精密機械(唐山)の外観



唐山市へ進出決定の理由

進出候補地の地域設定

弊社の中国進出候補地選定に際して、カシオグループとしてすでに山東省(済寧市)・上海市に進出拠点があるので、それより北部寄りの地域に限定した。

又、日本をはじめとした輸出の需要があり、大規模輸出港に近い地域(大連・天津・青島)を中心にして候補地を探すことにした。

唐山市を候補地に加えた経緯

弊社の中国進出候補地探しは、2002.11月～2003.3月まで約5ヶ月間かけて、大連・青島・天津の近郊を中心に候補地を探していた。

その時点では候補地としての唐山市は知らなかった。

2003.4月～6月の間 SARS の影響で、一時活動を休止していた。

その間に、唐山市を紹介されて、はじめて具体的に唐山市を知った。

各候補地での比較検討の結果

比較検討の項目

(インフラ面) 港までの距離・時間、高速道路の状況、開発区のインフラ整備状況。

地場の主要産業、人材採用面、優遇政策面、受入れ体制、日系進出企業の実情 等。
以上の項目等の検討をした結果、唐山市に決定した。

唐山市の利点としては

1. 交通の面で北京空港から1時間40分、天津港から1時間、高速道路網も整備されている。
2. 電気の安定供給が期待できる。
(時々、電気設備工事関連での短時間の停電はあるが、事前連絡があり、大きな問題はない)
3. 人材確保の面での条件がよい。

弊社は、溶接加工技術者の技能レベルの向上、技術者の育成・定着が重要なポイント。

技術者・技能者の基礎知識のある、唐山市機械技術学校の卒業生を、主体に採用している。

若く(18歳~28歳)まじめな人が多く採用できた。

(全員 自宅、アパートから自転車・バスで通勤しており、定着率は非常に高い。)

(例えば グループ会社の上海工場は、唐山工場と比べて、転職する人が多い。)

4. 唐山市の受入れ体制

唐山市政府の進出企業の受入れ体制では、我々企業側の立場に立って、色々提案が出された。独資で進出して、早期に操業開始をしたい弊社にとって、いろいろ要求したいことに対しても、柔軟に対応してもらえる安心感を持った。

5. 唐山市は自動車産業と合わせて、溶接関連の産業を大々的に推奨している。
これは弊社の事業内容に合っている。

6. 日系進出企業の実情

自動車関係企業以外でも、広く溶接・溶断に関連する日本のメーカー(松下・神戸・小池さん等)が、すでに進出している。

7. 「首都京唐鋼鉄」が唐山市曹妃甸地区で、中国内で最大規模(2,000万吨/年間)

かつ最新鋭設備による高炉製鉄所を建設し、2007年操業開始予定。

これは、弊社にとっても 厚・中鋼板の素材調達面の条件で、より有利になる。

8. 対日感情は友好的で、唐山市全体での治安もよく、工場を操業する上で安心できる。

弊社のこれまでの経過

唐山市への最初の訪問	03.7月
唐山市への進出決定・意向書取交わし	03.8月
会社設立	03.9.8
工場建設の準備	03.10月～ 03.12月
第一期工場建設	04.1月～ 04.6月
工場操業開始	04.8月
第二期工場建設(拡張)	05.7月～ 05.10月

操業開始までの唐山市の対応

行政関係の仕事については、安心して唐山市政府に任せられた。

唐山市進出決定～工場操業立上げ迄の間、行政面の関わる一切の実務手続き等は、唐山市側が、弊社に代わってすべての実務処理をしていただいた。

(開発区から 2名 弊社に専任担当者として、配属してもらった)

この間、私共は工場建設、生産開始の準備等に集中できた。

又、その間には、障害事項がいろいろでてきたが、その都度 市政府・開発区側にて、素早く対処してもらった。

結果として、当初の目標通り、最短で工場稼動立上げができた。

日本事務所の 小林所長・江副所長のお二人には、その他行政面以外の問題事項に関するいろいろ相談をして、的確なアドバイスを貰って、現在迄比較的順調に運営できている。

日程と人員と生産量の経過

	記事	日本人	現地採用者	日本向け主製品 Assy品(台/月)
'03.9	会社設立	2		
03.10	現地採用開始	2	2	
04.6	管理者候補採用	2	10	
04.8	操業開始	3	30	
04.10	量産開始	4	70	60
04.12		4	100	100
05.3		4	120	150
05.6		4	150	200
05.9		4	200	300

生産工場の一部



人員採用と日系企業との交流

日本人： 総経理、管理部長、製造部長、技術応援者

中国人中間管理者： 25歳～28歳（現在 10名）

約1年経って、育ってきている。

・現場技能者の技術レベルの向上

品質面では、ユーザーからのクレームはほとんど無く、日本のユーザーからは、高い評価をもらっている。

・現地日系企業との交流

日系企業の総経理との定期的な交流があり、各社の福利厚生・給与等の、情報交換をやり、お互いに他社の良いところを学んでいる。

今後の取組と唐山進出の感想

今後の取組み

弊社のユーザーである建設機械業界は、世界的な需要増加傾向にあり、生産能力を高めるべく第二期工場拡張工事(05.7 ~ 05.10)を実施して、工場内レイアウトも見直し、新規生産設備を導入して、同時に技術者の新規採用も行い、生産体制の増強をしている。ユーザーの要求に応じて、今後さらに伸ばしていきたい。

最後に

唐山市について、製造業それも特に私共スタッフの少ない中小企業にとっては、唐山市開発区を選んで、結果として 大変よかったと思っています。これは、唐山市が持っている条件と、進出日系企業に対する、唐山市政府・開発区行政側の、受入れ体制の意思統一が出来ており、企業にとって安心して事業展開できる環境だと思いま唐山市の皆様方にお礼申し上げます。

日本事務所の小林所長・江副所長の対応にも、感謝しています。